

各 位

2026 年 8 月 21 日
株式会社インプレス

AI を前提に働く時代に必要な、生成 AI の基礎知識を一冊に整理
『図解でスッキリ 生成 AI のきほんとしくみ』
8 月 21 日（金）発売

インプレスグループでIT・デザイン関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高橋隆志）は、生成AIの全体像と技術の仕組み、業務活用の基礎知識をわかりやすく解説する書籍『図解でスッキリ 生成AIのきほんとしくみ』を2026年8月21日（金）に発売いたします。



■AIを前提に働く時代に、生成AIを業務で活用するための共通理解を一冊に

ChatGPTの登場以降、生成AIはエンジニアだけでなく、営業、企画、管理部門など、さまざまな職種で利用されるようになりました。文章や画像の生成、情報収集、資料作成、プログラミングなど、その活用範囲は広がっています。一方で、「なぜ自然な文章を作れるのか」「なぜ間違った回答をするのか」「RAGやAIエージェントはどのような仕組みなのか」など、生成AIを業務で利用するうえで知っておきたい基本や仕組みは、専門用語も多く、全体像をつかみにくい分野でもあります。

企業や組織で生成AIを活用していくためには、生成AIがどのような仕組みで動き、何ができ、どこに限界やリスクがあるのかを理解しておくことが重要です。エンジニア、企画・営業、管理部門、情報システム部門など、立場の異なる人が生成AIについて共通の基礎知識を持つことは、導入や活用について適切に判断するための土台になります。

『図解でスッキリ 生成AIのきほんとしくみ』は、こうした業務利用の土台となる知識を体系的に整理した入門書です。生成AIの歴史や社会的な影響から、LLM、Transformer、Attention、トークン、ハルシネーションなど、生成AIがどのように動くのかを理解するための基本的な仕組みを解説。さらに、RAG、ファインチューニング、MCP、AIエージェントなど、生成AIの能力を業務やシステムで活かすための仕組み

みを取り上げます。加えて、業務での活用方法や評価・コスト管理、セキュリティ、著作権、法規制、今後の生成AIの広がりまでを扱い、AIを前提に働く時代に必要な基礎知識を一冊にまとめています。

■「解説＋図解」の見開き構成で、生成AIの仕組みから活用・リスクまでわかりやすく解説

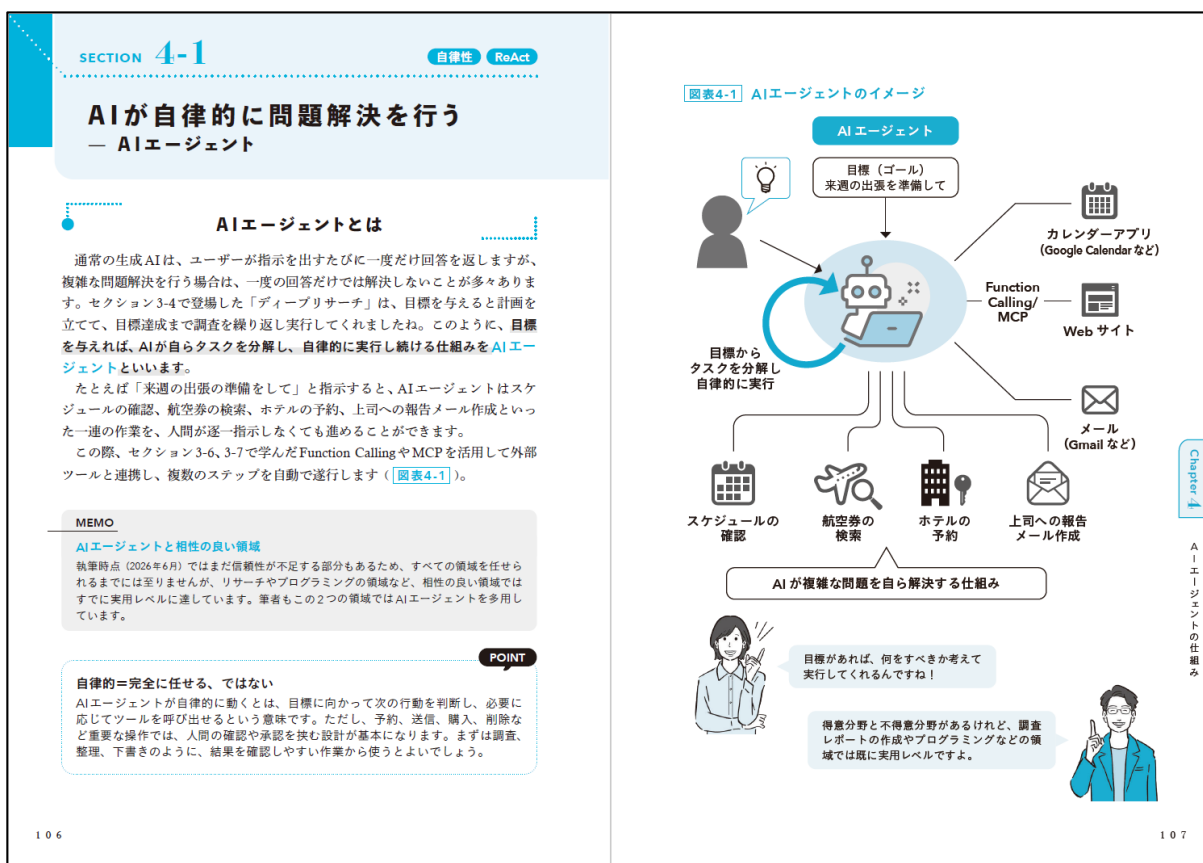
本書は、1つのテーマを「左ページ＝解説」「右ページ＝図解」の見開きを基本に展開します。文章だけでは理解にくい生成AIの仕組みや技術の関係を、大きな図を使って視覚的に整理し、専門知識がない読者でも全体像をつかみやすい紙面構成を採用しています。

LLMやRAGなどの基本技術に加えて、AIが目標に応じてタスクを進めるAIエージェントの仕組みや、生成AIを業務で利用する際に知っておきたいセキュリティ、著作権、法規制まで幅広く解説しています。POINTやMEMO、会話による補足も随所に配置し、専門用語や複雑な概念を1つひとつ理解しながら読み進められるよう工夫しています。

■本書は以下のような方におすすめです

- ・ 生成 AI の全体像と仕組みを基礎から学びたい新米エンジニア
- ・ 生成 AI の導入・活用を担当する情報システム部門、DX 推進担当者
- ・ 業務で生成 AI を利用する企画・営業・管理部門の方
- ・ 社内やチームで生成 AI について共通理解をつくりたい方
- ・ 生成 AI をこれから学び始める学生や初学者

■紙面イメージ



生成 AI を支える技術や仕組みを、大きな図でわかりやすく解説

AI生成物の権利と商用利用

権利は誰に発生するのか

生成したコンテンツに著作権が発生するかどうかは各国で議論が続いています。2026年6月時点では「人間の創作的寄与」が中核的な判断軸となっています。米国著作権局も生成AIの出力について、十分な表現上の決定を人間が行っているかどうかを重視しています。単にプロンプトを入力しただけで著作権が認められるわけではなく、人間が構成、選択、修正、編集などの場面で創作的に寄与しているかが問われるのです。日本でも、最終的に保護されるのは人間の創作活動であるという発想が出発点になります（図表7-12）。

AI生成物に対する基本姿勢

前述の通り、AI生成物について著作権を主張するためには、人間の創作的寄与が必要不可欠です。「AIが作ったから自動的に自分の権利になる」とは考えないほうがよいでしょう。

AI生成物を著作物として権利を主張したい場合には「どこに人間の創作性があるか」を整理しておくことが重要です。プロンプトを工夫しただけでは、創作的寄与として十分とはいえない場合があり、生成後の選択・修正・組み合わせなど、人間の判断が積み重なっているかが鍵になります。

AI生成物を利用するさいは、「どんな生成AIで作られたものか」「人間が何を加えたか」「どんな目的に利用できるか」を記録しておく、後から権利関係を整理する場面で役立ちます（図表7-13）。

MEMO

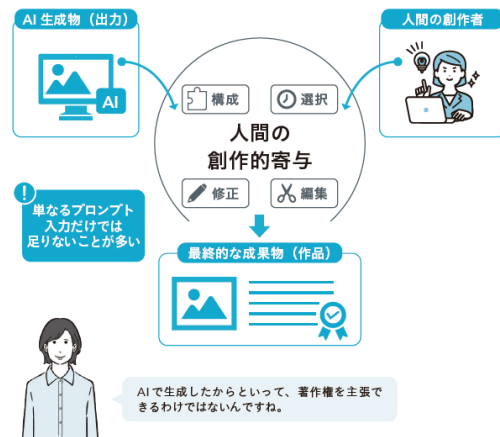
創作的寄与は記録しておく

AI生成物を商用利用する場合は、どのような指示を出し、どの出力を選び、どこを修正・編集したかを記録しておくことが重要です。あとから権利関係や制作過程を説明する必要があるときに、人間がどのように関与したのかを示す手がかりになります。

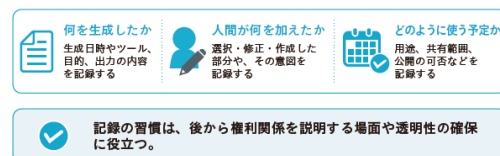
206

図表7-12 権利は誰に発生するのか

日本の法律ではAIは法的な人格を持たないため、著作権は著作物を創作した人に発生します。AIを用いた成果物で著作権を主張するためには、人間の創作的寄与が必要となります。



図表7-13 AI生成物を利用するさいに記録しておくべきこと



207

業務で生成AIを活用するために必要な知識や判断のポイントを図解で整理

■本書の構成

- Chapter 1 生成AIの基本
- Chapter 2 生成AI/LLMの仕組み
- Chapter 3 生成AI/LLMを活用するための技術
- Chapter 4 AIエージェントの仕組み
- Chapter 5 業務に活かすための技術
- Chapter 6 セキュリティの必須知識
- Chapter 7 法規制と著作権
- Chapter 8 生成AIのさらなる広がり

■書誌情報



書名：図解でスッキリ 生成AIのきほんとしくみ

著者：岩田 宇史

監修者：広木 大地

発売日：2026年8月21日（金）

ページ数：248ページ

サイズ：A5判

定価：1,980円（本体1,800円＋税10%）

電子版価格：1,980円（本体1,800円＋税10%）※インプレス直販価格

ISBN：978-4-295-02489-7

◇Amazonの書籍情報ページ：<https://www.amazon.co.jp/dp/4295024899>

◇インプレスの書籍情報ページ：

<https://book.impress.co.jp/books/1125101155>

■著者プロフィール

岩田宇史（いわた・たかふみ） 著者

1985年生まれ。筑波大学大学院を修了後、2011年に株式会社エイチームへ入社。新規事業の立ち上げや基盤システムの開発・運用などに携わる。未上場期から東証一部上場に至るまでの過程を経験したのち独立し、株式会社SteamCodeを創業。現在は、AI活用支援、システム開発、ITエンジニア育成などに取り組むほか、株式会社AillのCTOも務める。一般社団法人日本CTO協会エンジニア育成WGに所属。著書に『いちばんやさしいJavaScriptの教本』（インプレス）などがある。

広木大地（ひろき・だいち） 監修者

1983年生まれ。筑波大学大学院を修了後、2008年に新卒第1期として株式会社ミクシィに入社。同社のアーキテクトとして、技術戦略から組織構築などに携わる。同社メディア開発部長、開発部部長、サービス本部長執行役員を務めた後、2015年退社。現在は、株式会社レクターを創業し、技術と経営をつなぐ技術組織のアドバイザーとして、多数の会社の経営支援を行っている。著書『エンジニアリング組織論への招待〜不確実性に向き合う思考と組織のリファクタリング』が第6回ブクログ大賞・ビジネス書部門大賞、翔泳社ITエンジニアに読んでほしい技術書大賞2019・技術書大賞受賞。一般社団法人日本CTO協会理事。朝日新聞社社外CTO。株式会社グッドパッチ社外取締役。

以上

【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計 8,000 万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、デザイン・グラフィック関連の書籍ブランド「MdN」、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT 関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch シリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」をはじめとする企業向け IT 関連メディアなどを総合的に展開・運営する事業会社です。IT・デザイン関連出版メディア事業、およびデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：塚本由紀）を持株会社とするメディアグループ。「IT・デザイン」「音楽」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

E-mail: pr-info@impress.co.jp URL: <https://www.impress.co.jp/>